

1 学習目標と学習課題との関連を吟味して書かせましょう

読みを深めるために、ワークシートやノートなどに「書く」学習を取り入れることは大変効果的です。実際に書くに当たっては、目的意識をもたせるために、学習目標を確認させたり、教師が分かりやすい説明を加えたりすることが大切です。

「モアイは語る」（光村図書2年）を例にしてみましょう。教科書には、次のような学習目標と学習課題が例示されています。

「モアイは語る」（光村図書2年）の学習目標・学習課題例

文章中に述べられている事実や根拠を確かめながら、筆者の意見を読み取る。段落に着目し、文章の構成をとらえる。

↑
↷

学習目標の
とは、学習課題
の**1**と**2**とに、ど
のように対応す
るのでしょうか。

2 第三のまとまりで、筆者は、地球全体のことについて述べている。筆者の意見を二百字程度でまとめ、書いてみよう。

第3のまとまり	第2のまとまり	第1のまとまり		
ページ 行目から ページ 行目まで 小見出し.....	ページ 行目から ページ 行目まで 小見出し.....	ページ 行目から ページ 行目まで 小見出し.....		
内容	内容			
	小見出し	小見出し	小見出し	小見出し
	内容	内容	内容	内容

1 この文章は、三つの大きなまとまりに分けることができる。次の表を参考に、構成をまとめよう。

この学習課題に取り組ませる前に、次のように問うと効果的です。

発問例

教科書の137ページには、学習課題が二つ示されています。それぞれ、どちらの学習目標を達成するための課題なのでしょう。

この問いに答えることにより、学習課題**1**と**2**が、学習目標の と と、どのように対応しているかが明確になります。

実は、学習目標の に対応するのは、学習課題の**2**のほうです。また、学習目標の に対応するのは、学習課題の**1**のほうです。これに気付くことによって、「学習目標 ()を達成するために学習課題**2**(**1**)に取り組む」ことが明確になります。これをおろそかにすると、「何を」「何のために」書くのが曖昧な学習活動になってしまいます。

また、次の例のように、学習課題への取り組みを詳しく説明することで、学習の流れを一層明確にすることも大切です。

学習課題 **1** についての説明例

学習目標を声に出して読んでみましょう（「段落に着目し、文章の構成をとらえる」）。そう、二つめの目標に向かって、これから**1**の学習課題に取り組めます。ワークシートを見てください。「内容」の欄が大きいですね。

でも心配なく。「文章の構成」を大づかみでとらえることが大切ですので、「内容」の欄よりも、まず上の段を重視しましょう。第1のまとまりがどこからどこまでなのか、第2のまとまり、第3のまとまりはどこからどこまでなのかを、しっかりと考えましょう。

そのあとで、それぞれのまとまりの内容を大づかみにして「見出し」を考えてみましょう。以上ができれば今日は合格です。ゆとりがあったら、「内容」の欄へも書いてください。

目的意識をもって学習課題に取り組めるように、最初に学習目標を確認しています。

「文章の構成」をとらえるためにワークシートを使うことを強調しています。

到達目標を明らかに示しています。

学習課題 **2** についての説明例

「筆者の意見を二百字程度で」とありますね。そのとき、一つ目の学習目標との関連で、どんなことを二百字の中に含めて書くことが大切でしょうか。

そう、「事実や根拠」を確かめて、引用するとよいですね。単元の扉をみてみましょう。そこには、「筆者の意見をとらえ、説得力のある表現を学ぶ」という単元目標が示されています。みなさんが、どんな説得力のある事実や根拠を引用するか、先生も楽しみにしています。

この学習課題は、全員の分を印刷して配り、読み合うことを前提にして取り組みましょう。

二百字程度で何を書くのか、イメージをもたせようとしています。

取組の成果をどう扱うかを明らかにしています。

ワンステップアップ

学習目標と学習課題との関連を、生徒に分かりやすく説明できる力を教師が身に付けることは、授業力向上を図る重要なポイントの一つです。研究授業をする場合は、指導案の「指導上の留意点」の欄などに、「実際に話す予定の説明内容」を具体的に明示するなどしておくことで、参観者に「授業の意図」が伝わります。また、授業評価の項目に、「授業のはじめの説明は分かりやすかったですか」などを加えて、自分の説明が生徒に理解されているかを確認してみることも大切です。